

木造耐震ニュース（H27.1.18号）

地震と住まいを考える「京都市まちかどシンポジウム」開催 報告

平成27年1月17日(土)

阪神大震災から20年を迎える17日、地下街・ゼスト御池通路広場にて「まちかどシンポジウム」が開催され、市民ら100人が参加した。

阪神大震災で被災された神戸市の片瀬範雄さんや山科区勧修学区自主防災会の新谷義隆さんら4人と耐震の専門家の立場からパネリストの1人として参加し、震災に強い街づくりについて語り合うトークイベントが1時間にわたって開かれた。

軽快な耐震紙芝居（だんまるさん）に始まり、京都市長の挨拶、そして、神戸の片瀬氏が当時の町の様子や現在の町の対策状況を報告、前もって地域で備える体制があるかないかで大きく違っていたと経験談を話され、勧修学区自主防災会の新谷氏が地震に備えた体制を学区の中で作っておくことが阪神大震災で学んだ事だと強い信念で地震に備える事を日々実行している。との事でした。

又片瀬氏は地震が来て机の下に潜るとかといった時間もなく一瞬で建物が崩壊して下敷きになった方がたくさんおられ、まずその避難をする間だけでも倒壊しない建物にすることは重要で、生命をまず守るために完全な耐震改修でなくても、少しでも耐震性がUPする工事を早急にする事お勧めします。

京都市でもその観点から少しでも耐震性が上がる工事には補助金がありますので昭和56年以前の建てた建物とわかったらすぐにでも京安心すまいセンターに足をお運びください。昭和56年以降でも心配なら私の所属している京都府建築士事務所協会に相談していただければ耐震に精通した建築士がたくさんいますので、お役に立つと思います。とわたしも発言いたしました。

同時に耐震相談会が行われ、木造耐震委員会委員の久田さん、増田さんが相談員となって熱心に相談に応じられていました。



文責

専務理事 瀬戸一海